

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成22年8月26日(2010.8.26)

【公開番号】特開2008-277250(P2008-277250A)

【公開日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【年通号数】公開・登録公報2008-045

【出願番号】特願2007-329049(P2007-329049)

【国際特許分類】

H 01 B 13/00 (2006.01)

B 05 D 5/12 (2006.01)

H 01 B 5/14 (2006.01)

H 05 K 9/00 (2006.01)

【F I】

H 01 B 13/00 5 0 3 B

B 05 D 5/12 B

H 01 B 13/00 5 0 3 Z

H 01 B 5/14 Z

H 01 B 5/14 A

H 05 K 9/00 V

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月9日(2010.7.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

支持体上に導電性物質と水溶性バインダーとを含有する導電性金属部を形成する工程と

、前記導電性金属部を40以上温水に浸漬させる温水浸漬工程と
を有することを特徴とする導電膜の製造方法。

【請求項2】

前記の温水への浸漬時間が5分以下であることを特徴とする請求項1に記載の導電膜の
製造方法。

【請求項3】

前記水溶性バインダーが水溶性ポリマーであることを特徴とする請求項1または2に記
載の導電膜の製造方法。

【請求項4】

前記温水の温度が60以上であることを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記
載の導電膜の製造方法。

【請求項5】

前記温水の温度が80以上であることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記
載の導電膜の製造方法。

【請求項6】

前記温水のpHが2～13であることを特徴とする請求項1～5のいずれか1項に記載
の導電膜の製造方法。

【請求項7】

前記の導電膜に硬膜剤が含まれていることを特徴とする請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 8】

前記温水浸漬工程の前に、前記導電性金属部を平滑化処理する平滑化処理工程を有することを特徴とする請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 9】

前記平滑化処理を線圧力 1960 N / cm (200 kgf / cm) 以上で行うこととする請求項 8 記載の導電膜の製造方法。

【請求項 10】

前記導電性物質が導電性金属微粒子であることを特徴とする請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 11】

支持体上に感光性銀塩と水溶性バインダーとを含有する感光層を有する感光材料を露光し現像することによって、前記支持体上に導電性金属銀部を形成する工程と、

前記導電性金属銀部を 40 以上の温水に浸漬させる温水浸漬工程とを有することを特徴とする導電膜の製造方法。

【請求項 12】

前記水溶性バインダーが水溶性ポリマーであることを特徴とする請求項 11 記載の導電膜の製造方法。

【請求項 13】

前記温水の温度が 60 以上であることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 14】

前記温水の温度が 80 以上であることを特徴とする請求項 11 ~ 13 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 15】

前記温水の pH が 2 ~ 13 であることを特徴とする請求項 11 ~ 14 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 16】

前記支持体上のいかなる層にも硬膜剤を含有しないことを特徴とする請求項 11 ~ 15 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 17】

前記温水浸漬工程の前に、前記導電性金属部を平滑化処理する平滑化処理工程を有することを特徴とする請求項 11 ~ 16 のいずれか 1 項に記載の導電膜の製造方法。

【請求項 18】

前記平滑化処理を線圧力 1960 N / cm (200 kgf / cm) 以上で行うこととする請求項 17 記載の導電膜の製造方法。

【請求項 19】

請求項 1 ~ 18 のいずれか 1 項に記載の方法によって製造された導電膜。